



弘前市民に広く展示資料をご覧いただいて

— 弘前資料展示会二日目の様子 —

東亜同文書院大学記念センター
ポストドクター 武井義和

7月27日(日曜日)は、ご当地弘前が生んだ、近代中国の革命家・孫文の協力者であった山田良政・純三郎兄弟の生涯を紹介する写真や書、パネル資料、および東亜同文書院(大学)の歴史を紹介するパネル資料など60点余りを、前日の講演会会場と同じ場所で展示した。前日は会場スペースの都合上、山田兄弟に関する資料15点だけの展示であったが、講演会後の午後6時から2時間ほどかけて、記念センターのスタッフたちで慌しく全面改装のセッティングをしたのである。

今回の企画が地元の新聞で取り上げられたこともあり、当日は10時のオープンとともに見学者が来場され、関心の高さが窺われた。私は展示説明会を午前11時、午後2時、午後4時の3回にわたって担当したが、毎回15名から20名ほどが参加され、熱心に話を聞いておられた。マイクを片手に、山田兄弟の生い立ちに始まり良政が1900年に孫文による惠州起義に参戦し戦死したこと、弟の純三郎はその遺志を受け継いで孫文の側近として活躍し、その行いが日本敗戦直後においても中国国民政府から高く評価されていたことなどを話すと、参加者の多くは大きくなずいていた。また、東亜同文書院のあらましや、卒業年次生が毎年行った大旅行、中国語教育などについても説明し、この東亜同文書院、さらには愛知大学についても関心を持って頂いたように感じた。

アンケートでは展示全体の感想について「展示物の説明がよかった」のほか、「大変資料が豊富」、「知らない事ばかりだったので勉強になった」、「もう少し山田兄弟のことを知りたいと思った」などの言葉を頂いた。ある女性が「弘前でこんな人たちが誕生したなんて知らなかった」とおっしゃっていたように、彼らを知っている弘前市民は意外に少ない。その理由として、彼らが早くから中国に渡ったことが関係しているようであるが、見学された方々は一様に資料に見入り、山田兄弟への関心を強く持たれた様子であった。

現在、記念センターには山田兄弟に関する歴大な量の資料が保管されているが(一部は常設展示室で公開)、弘前市民に山田兄弟、さらには愛知大学のことを知って頂く良い機会になったと思う。是非ともまた弘前市で資料展示を行いたいと思った次第である。

